

2016 年度 センター試験 国語(本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	<p>(ア)の正解の「宮籍」が浮かばなかった受験生がいるかもしれないが、他の選択肢の「ゼン」の字は浮かびやすいので、消去法で選択できるはずである。また、(イ)の「収束」を「終息」と勘違いした受験生もいるかもしれないが、「息」の字は選択肢にないので、間違いに気付くはずである。</p>
	問2	<p>選択肢の形が「……リカちゃんが、～へと変わっているということ」と揃っているので、それに注意して選択肢をチェックすると良い。まず「……」の部分がかつての「リカちゃん」の説明であるので、第1段落3行目の「かつてのリカちゃんは、子どもたちにとって憧れの生活スタイルを演じてくれるイメージ・キャラクターでした」と照合すれば良い。その内容を述べているのは①しかない。また、「～」の部分は第2段落の内容と対応している。第2段落1行目の「平成に入ってからのリカちゃんは、その物語の枠組から徐々に解放され」、4行目の「その略語としての意味から脱却して、どんな物語にも転用可能なプロトタイプを示す」に着目すれば、やはりその内容を述べているのは①しかない。</p>
	問3	<p>各選択肢は「～自己の外面的な要素と内面的な要素」という部分までがすべて同じとなっているため、「自己の外面的な要素」と「内面的な要素」の関係を本文からつかむことがポイントである。また、各選択肢に「人格のイメージ」の説明が入っている点も合わせて押さえておくこと。第5段落1行目で『『大きな物語』という揺籃のなかでアイデンティティの確立が目指されていた』とあり、「大きな物語」の共有がアイデンティティと結びついていることは明らかである。第5段落3行目で「アイデンティティとは、外面的な要素も内面的な要素もそのまま併存させておくのではなく、揺らぎをはらみながらも一貫した文脈へとそれらをシュウソクさせていこうとするものでした」とあり、それは結局「外面的な要素」と「内面的な要素」を一貫した一つのまとまりにしていくことである、とつかめれば、②の「隔たりに悩みながらも、矛盾のない人格のイメージを追及していた」がその内容に合致することがわかる。</p>
	問4	<p>センター試験現代文では、理由を問われても「なぜか」を考えるのではなく、本文との照合が求められる。各選択肢は最初が「ハローキティやミッフィーなどは、最小限の線で造形されること」に揃えてあり、それは10段落の表現と対応している。10段落では、「最小限の線で描かれた単純な造形は、私たちに強い印象を与え、また把握もしやすいものです」とあるので、そこにだけ引きずられると、②の選択肢にひっかかりやすい。ここでは、11段落1文目に単純化されていればどんなに場面が変化しよう対応できるとあるので、「最小限の線で造形されること」が「万国で受け入れられている」ことに結びつくことがわかる。そこから選択肢を見ると、④で「その特徴が人々に広く受容された」とあり、それが本文に対応していることがわかる。①「認識される存在」、③「世界中で人気を得る」、⑤「さまざまな社会で人びとから親しまれる」はおかしいことがわかる。また、各選択肢の後半部は、「人間の場合も、人物像」が揃っているが、「も」とある以上選択肢前半と同様でなければおかしい。④の「人物像の構成要素が限定的で少ない」「広く受け入れられる」だけが、そうになっている。また、④の「人間関係が明瞭になり、様々な場面の变化にも対応できる」は、10段落・11段落にほぼそのまま説明されている。</p>
	問5	<p>「価値観が多分化した相対性の時代」と「誠実さの基準も変わっていかざるをえない」の2点をきちんと説明しているかどうかをチェックする。まず「価値観が多分化した相対性の時代」については、①・②・⑤では「相対性」について説明されているが、③には時代の説明そのものがなく、④では「外キャラの提示が当たり前になっている現代」と「相対性」とまったく関係のない説明がされているので、①・②・⑤にしぼってチェックすれば良い。次に「誠実さの基準もかわっていかざるをえない」については、傍線部直前で「自分をキャラ化して呈示することは、他者に対して誠実な態度といえなくもない」とあるので、そこと照らし合わせればその内容に合うものは②以外ないことがわかる。</p>

	問 6	<p>(i) ①は「演じてくれる」と表現したからといって敬意が示される訳ではないのでおかしい。ここでの「くれる」は「自分のために他人がその動作をし、それによって恩恵・利益を受ける」という意味で使われている。</p> <p>(ii) ③では「具体例を挙げて、それまでとはやや異質な問題を提示し、論述方針の変更を図っている」とあるが、12 段落の「店員に求められているのは、一人の人間として多面的に接してくれることではなく、その店のキャラを一面的に演じてくれることなのです」という表現が、10 段落・11 段落の内容を説明したものであることは明らかであるので、おかしい。</p>
第2問	問 1	<p>(ア)「目くばせした」は「目つきで知らせること」という意味。</p> <p>(イ)「無造作」は「慎重に構えることなく、手軽にやっつけてのけるさま」という意味。</p> <p>(ウ)「見栄を張る」とは「うわべをつくらって、必要以上に見せようとする」という意味。それが「ない」ことであるから、②の「自分を飾って見せようともせず」が正解となる。</p>
	問 2	<p>30 行目までの本文内容との照合をすること。本文に明らかに書かれていない内容を切り捨てていけば良い。②「前に座っているのが年配の女性であることに安心している」、③「闇で座席を買わされたことを耐えがたく思い」、④「前に座っている女性と親しくなって、長い道中を共に過ごせることに満足している」、⑤「次の仕事の準備ができることにほっとしている」は、本文から読み取ることにはできない。</p>
	問 3	<p>傍線部中に「残念な気がして」と明らかに心情が記されているので、ここでの「残念」は何が残念であるのかを考えること。傍線部直前の「彼女は、言い合いのまま出ていった夫が、やっぱり発車までホームに残っていたということを知らずにいるのだ」が「残念」であることの内容である。したがって、夫がホームに残って男の子を見送っていたことを彼女に知らせたいということになるので、それが説明されているかどうかチェックのポイントである。①「父親の示した優しさを彼女に伝えて二人を和解させたい」、②「彼女にも、単身で東京に残る夫のことを思いやっしてほしいと訴えたくなくなった」、③「男の子が父親と別れたときのけなげな姿を母親に伝えたい」、⑤「周囲の物珍しさで寂しさを紛らわそうとする男の子の心情を理解してほしい」とは、どれもポイントからはずれている。</p>
	問 4	<p>傍線部の「腰をおろす」とは「その場にしゃがみこむ」という意味であるため、「明日までの汽車の中によやく腰をおろしたふうだ」というのは、鹿児島までの長い距離を移動する汽車の中に「居場所を得て落ち着いた」ということとなる。また、本文 89 行目から傍線部までの彼女と周囲の乗客とのやりとりに注意をする。明らかにその内容と合わない選択肢はカットすればよい。①「周囲の乗客に励まされたことで冷静になることができた」という描写はない。②「周囲の人たちの優しさと気遣いに感激している」は読み取れない。④は傍線までの彼女と周囲の乗客とのやりとりの様子が一切説明されていない。⑤は「赤ん坊にミルクを飲ませ、じっとしていられない男の子も眠り始めたので、やっと一息つくことができた」後に、「不満をまくし立てる」とあるが、本文では「乳をのませながら、彼女は胸につかえているものを吐き出す」とあるほか、男の子も母親が不満を言っている間に居眠りを始めている。ミルクを飲ませることと男の子が居眠りを始めたことは、母親が不満を言ったことと同時進行であるため、一息ついた後に不満を言うというのとはおかしいことになる。③の「夫の無理解に対する不満を口にしてしまったが」は本文 94 行目のセリフと対応し、以降のセリフを周囲の乗客は確かに同調して聞いている。また、「長い距離を移動する気苦労を受け入れるくらいに、落ち着きを取り戻している」という部分も、傍線部の内容にそのまま対応している。</p>
	問 5	<p>本文全体をふまえた説明として適当なものを選択することが要求されているので、明らかに本文内容に反するものや本文から読み取れない内容を含む選択肢をカットする。①「車内の騒がしさに圧倒されておとなしくしていた」は、明らかにおかしい。③「父親の怒りっぽい性格のために家族がしばしば険悪な雰囲気になる」は、本文からは読み取れない。④「男の子は両親の不和に対してやるせない思いを抱えている」も、本文からは読み取れない。⑤「男の子は父親のことだけは信頼しているようだ」も、本文から読み取ることにはできない。ホームでの別れのシーン72行目で、男の子は父親の方へ汽車から出ようとしている。その場面と対応させて考えれば、傍線部の</p>

	問 6	<p>「父ちゃん来い」という表現は②が示すように「父親に自分のそばにいてほしいという願望を表している」と考えることができる。また、各選択肢最後の部分に私の心情が書かれているが、①・③・④・⑤ではそれが具体的に示されているの対し、②だけは「気がかりに思っている」となっている。気にしていることだけは間違いなく読み取れるが、どのように気にしているのかは読み取りようがない。そこからも②が正しいとわかる。</p> <p>①「小さな所帯をいっぱい詰め込んだように」は、その直後の「荷物などもごたごたして」を説明している表現であって、車内全体が庶民的な一体感に包まれていることを表しているのではない。</p> <p>④「母親が話をするにつれて次第に気持ちを高ぶらせていく」が問 4 で見たように、明らかに本文内容と合わない。</p>
--	-----	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(古典は次ページに続く)

<p>第3問</p>	<p>問1</p> <p>問2</p> <p>問3</p> <p>問4</p> <p>問5</p> <p>問6</p>	<p>(ア)の「念ず」は、基本的な古今異義語である。</p> <p>(イ)の「いかでか〜む」は一種の構文であり、「いかでか」が反語表現であること、「む」が可能推量であること、以上2点を押さえることがポイントである。</p> <p>(ウ)は、「あへてなし」が全否定の構文であることから、選択肢は①・②に絞る。「いかにと言ふ人」は、逐語訳をすれば「どうしてと言う人(どうしてと問う人)」などとなるが、この直前の「内へただ入りに入るに」をうけているものは①「見とがめる人」である。なお、「男」の姿は、本文7行目「人は我が形をも見ず」とあるように、「周囲にいる誰の目にも見えていない」のであり、これが傍線部(ウ)と関連しているのである。</p> <p>格助詞「の」に関する文法問題である。[a]は「主格」、[b・e]は「連体修飾格」、[c・d]は「同格」の用法である。</p> <p>登場人物の「男」が「悲しきこと限りなし」と感じた理由を問う問題である。傍線部Aが、その直前の「『早う、鬼どもの我に唾を吐きかけつるによりて、我が身の隠れにけるにこそありけれ』と思ふに」をうけていることに着目すれば、正解は容易に得られる。</p> <p>これもまた「男」の行為に関する説明を求める問題である。選択肢のすべてが「夢の中に現れた僧に、朝六角堂…」で始まっていることから、その記述がある第3段落から傍線部Bまでの叙述を読み取ればよい。この範囲には、内容を理解するのに難しい箇所はないので、これも容易に正解が得られる。なお、この問は、「喜びながら夢を頼みて童の供に行く」という傍線部B自体を正確に反映している選択肢が④だけである、ということに気づくだけでも正解が得られる。</p> <p>傍線部C「事のあり様を語りければ」の動作主体も「男」である。傍線部Cは、ようやく再び人と話すことができるようになった「男」が、妻に自分が今までに経験したことを語ったという場面であるから、鬼に唾を吐きかけられて以降、「男」が経験したことを本文から読み取ればよい。「男」が体験したことは、第2段落から具体的に叙述が始まり、傍線部Cを含む第7段落まで続くので、解答根拠を探す範囲はかなり広い。しかし、本文の読解が易しいので、選択肢④の「男は尊い存在になり、姫君の傍らに姿を現すと、姫君の病気が治った」が明らかに本文中の記述にないということに気づくのもかなり容易だろう。この設問は、本説話で叙述される奇異な事件の顛末が始終「男」の体験談であるというこの文章の特徴を問うものである。その問題文ならではの個性あるいは特殊性に注目するセンター試験の特性をよく表すものであると言える。</p> <p>問6は、本文全体の内容合致問題である。先の解説でも触れたが、問3～問5は「男」の体験をめぐるものであり、しかもこの「男」の体験の叙述は、本文のほぼ全体を占めている。「説話」には筆者のコメントが加えられることが多く、今回の問題文も最後の1行(第8段落)がそれに相当する。「説話」であれば、問6で「筆者のコメント」の内容を問うことも考えられるが、今回はあえてそれを問わず、再度第1段落～第7段落を「男」の体験談とは異なるもう一つの視点から読む、という試みが感じられる。「もう一つの視点」とは、「男」が救いを求めた六角堂の観音による夢告である。これは一種の「霊験譚」である。</p> <p>選択肢のうち、①がやや紛らわしいが、「験者」は「牛飼いの正体を暴いて」いないので、ここが誤りである。「牛飼いは「この僧をうち見るままに、ただ逃げに逃げて外さまに去りぬ」と第6段落の1行目に書かれてあり、「正体」を暴かれることなく逃げたのである。</p>
------------	-------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

第4問	問1	本文中の語句の意味を問う設問である。昨年同様、(1)(2)とも漢文の重要語句ではないので、現代文で用いる語句の意味と、本文の文脈を合わせて意味を判断する必要がある。 (1)は「有知(＝知有り)」の具体的内容が問われている。傍線部前では「荷宇」は「生十月而喪其母」、傍線部後では「念母」とあり、前後の内容をつなぐことができる⑤が正解となる。 (2)の「遊」はさまざまな意味を持つが、「南遊」という語のまとまりと、注2(故郷の「香河」と「錢唐」が離れていること)から、④が正解となる。
	問2	基本的な知識を問う設問である。(ア)(イ)とも「すなはち」と読む接続語である。(ア)「即」は「すぐに」、(イ)「乃」は「そこで」の意味である。
	問3	傍線部解釈の問題である。「時々」には「時々」と「いつも」の意味があり、選択肢①・③に絞る。「念母不置」は「母のことをずっとおもう」と考えられるので、①が正解となる。
	問4	返り点と書き下し文の組み合わせを問う設問は、傍線部に句形・句法など解答のポイントになる語句があることが多い。傍線部Bでは「不能」を「あたはず」と読むことがポイントであり、まず選択肢②・④・⑤に絞る。その他には句形・句法が用いられていないため、書き下し文の内容や前後の内容から正解を導く。書き下し文の内容、及び傍線部後の「哀母之言語動作亦未能識也」に注目すると、④が正解となる。なお、「哀母之言語動作亦未能識也」同様、「亦」に注目して対応内容を考える設問は、2012年本試験でも出題されている。
	問5	傍線部解釈の問題である。傍線部には、疑問形「胡為～也」、使役形「使我至今日之得見」が含まれているが、選択肢で疑問形は訳されているので、使役形の解釈がポイントとなる。使役形の部分の逐語訳は「今日になって、私を(母に)会うことができるようにさせた」であり、同一内容の④が正解となる。
	問6	具体的内容を問う設問である。傍線部D「此図」は、「此」の指す内容が問われている。「此」は直前の「即夢所見為之図」を指し、第2段落に述べられている「荷宇」が夢に見た「母の姿」であることがわかる。 傍線部E「今之図」は、傍線部Eを含む一文の主語になっており、「今之図吾見之、則其夢母之境而已」から「母の夢を見る場面」を指すことがわかる。なお、「境」は「場所・場面」の意味である。
	問7	傍線部F以下の内容説明を問う設問である。選択肢は前半の「まことの心は～相手に通じる」まではすべての選択肢に同一表現で記されているので、ここ以降の本文「況子之於親、～之者乎」を解釈すればよい。なお「況～乎」は抑揚形で「まして～はなおさら…だ」と訳すので、選択肢を①・③・⑤に絞ってから内容を吟味する。